



監督：キムチョルミン  
映像制作団体「ダキュ製作所」で活動中  
長編ドキュメンタリー映画  
『歩みの理由』2011 『不安な外出』2014

韓国人である監督が、  
初めて在日朝鮮人と出会ったのは2002年金剛山。  
植民地と分断の歴史を生き、  
今も残る社会の差別の中で、  
なぜ、チョソンサラム（朝鮮人）であろうとするのか…。

## DMZ 国際ドキュメンタリー映画祭 審査員特別賞 受賞作品

在日朝鮮人は、“チョソンサラム”として生きるため、社会とも自分自身とも闘い続けている。

『私はチョソンサラムです』は、朝鮮(北)で在日朝鮮人と初めて出会った監督が、18年の間、日本とソウルを行き来し撮影した記録である。

日本で解放を迎えた朝鮮人は、祖国がすぐ独立するだろうという希望と期待を胸に、故郷に帰ることを夢見ていた。

映画は、在日朝鮮人1世から4世までの歴史を追い続け、人が人として尊厳を守り生きるこの意味を見つけていく。

その中には、アイデンティティの葛藤と苦悩を抱きながら、自らの民族を探そうとした人々がいた。

今も闘う在日朝鮮人の叫びに私たちは耳を傾けなくてはならない。

この映画が語っているように、互いの尊厳を守り勇気を伝えることから連帯は始まるだろう。

チェ・インファ（インディフェスティバル事務局長）

### アフタートーク 李英哲（リ・ヨン Chol）

1974年京都生まれの在日朝鮮人三世。本作映画に登場する京都の朝鮮小学校を卒業、大学まで朝鮮学校に通う。現在、朝鮮大学校教授。専門は日本語文学・植民地文学論。創作活動や映画・音楽・舞台制作も行う。本作の挿入歌「声よ集まれ、歌となれ」の作詞作曲を手がけた。朝鮮民主主義人民共和国にも数回訪問。本作の金哲民監督が、初めて北を訪れ、在日朝鮮人と出会った2002年、ちょうどピョンヤンに滞在していた。昨年の日本公開時、ついに監督と初対面をはたす。



### トークテーマ

朝鮮と日本のはざまで、さまざまな「分断」、そして「統一」とは何かを考える。

## 野火止シネマ倶楽部 ワンコイン上映会・第四弾



主催 東京演劇アンサンブル

2021 11/14(日)14時 野火止 RAUM

埼玉県新座市野火止 3-16-24

参加費：500円 全席自由

アフタートークあり 李英哲さん

チケット申込：TEL048-423-2521 akira@tee.co.jp



QRコードから、  
チケットの申し込みが  
できます。